

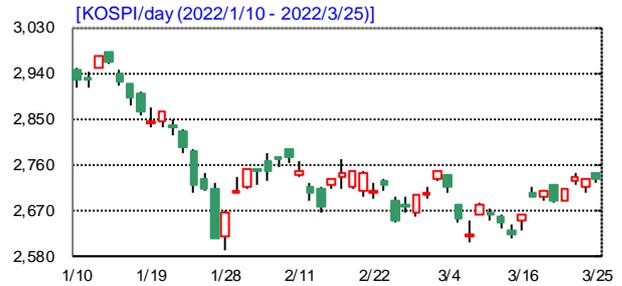


【韓国】 総合指数は週間で0.8%高と続伸、今週も神経質な展開か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.8%高と続伸。ウクライナでの戦闘長期化や和平交渉の難航を受け、週を通じて上値では伸び悩んだ。指数は週明け21日に終値で心理的節目の2700ポイントを下回ったが、押し目買いが入って翌22日にこの水準を回復。23日は米株高を受けてハイテク株が買われ、終値は3日以来、約3週ぶり高値をつけた。24日は反落。原油相場の上昇を受けてインフレ高進への警戒感が強まったほか、こう着するウクライナ情勢を背景に投資家のリスク選好姿勢が後退した。25日は米アリゾナ州への電池工場建設計画を発表したLGエナジー・ソリューションが7.6%高と大幅に上昇し、指数を押し上げている。今週もウクライナ情勢をにらんで神経質な展開か。国内では4月1日に貿易統計と製造業PMIが発表される予定。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は4週ぶりの取引再開で11.5%安と急落、今週も薄商いか

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は2日間の取引で11.5%安。ルーブル安が重しとなり急落した。モスクワ証券取引所は24日に約1カ月ぶりに株式取引を再開し、25日も取引が行われた。ルーブル建てのロシアMOEX総合指数は2日間で0.6%高と反発したが、外国人の株式売却が禁止されたことで薄商いとなった。一方、米ドル建てのRTS指数は24日に9.0%安、25日に2.7%安と続落。ルーブルが対米ドルで2月25日から15%超下落したことがドル建てのRTS指数を押し下げた。個別銘柄ではアエロフロート・ロシア航空が30%超下落した一方、エネルギーのノバテック、タトネフチ、産金のポリュス、資源のルサーールなどが2桁高となった。浮動株の約80%を保有する海外投資家の売りが禁止されているため今週も薄商いが続くか。

▼指数チャート

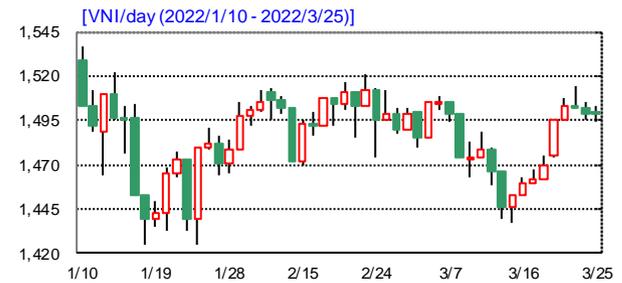


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で2.0%高と続伸、今週は引き続き底堅い展開か

先週の動き／今週の展望

VN指数は週間で2.0%高と続伸。不動産や食品などの主力株が上昇し、VN指数は一時、2月23日以来の戻り高値を更新した。週明け21日は指数が前週末比1.8%高と前週の15日から5連騰。不動産株や保険株の上昇が相場をけん引した。翌22日も銀行、証券、エネルギー関連が上昇し、指数は0.6%高と6日続伸した。その後は上値の重い展開となったものの、23日には場中に1513.90ポイントと2月23日以来の水準まで上昇。ただ、25日終値では1500ポイントを割った。個別銘柄では不動産のファットダットが10.8%、ノー・バー・ランド・インベストメントが8.4%、食品加工のマサン・グループが7.1%上昇した一方、空運のベトジェット航空が3.5%安、金融のベトコムバンクが2.0%安となった。今週も底堅い展開か。

▼指数チャート





【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.7%高、22 日の終値は初の 7000 ポイント台到達

ジャカルタ総合指数は週間で 0.7%高と続伸。おおむね堅調な値動きだった。週初の 21 日は、金融株とエネルギー株の一角が買われ、指数は 3 営業日ぶりに小幅反発。22 日は終値ベースで初めて 7000 ポイント台に到達し、4 日ぶりに過去最高値を更新したが、23 日は反動で売られ、この水準をわずかに下回った。一方、24 日は原油先物価格の上昇を受けてエネルギー株が指数上昇をけん引し、2 日ぶりに最高値を更新。ただ、25 日は反落して取引を終えた。今週は 1 日に 3 月の CPI が発表される予定で、前年同月比の上昇率は 3 カ月連続で 2%台になる見通し。好地合いが続けば、指数は一段の上値を迫る展開か。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 2.5%高、入国規制の大幅緩和決定を好感

ストレーツタイムズ指数は週間で 2.5%高と 3 週続伸。週後半は節目の 3400 ポイントを挟んでもみ合った。週初の 21 日は、前週末の NY ダウが上昇した流れを引き継ぎ、5 営業日続伸。22 日はパウエル FRB 議長が大幅利上げの可能性を示唆した影響で反落したが、23 日に買い戻されると、24 日は政府が新型コロナウイルスのワクチン接種を完了した外国人に対し、4 月 1 日から隔離なしの入国を認める方針を示したことで、シンガポール航空やコンフォートデルグロが買われ、指数は前日比 1.1%高と続伸した。25 日は終値で約 1 カ月ぶりに 3400 ポイント台に乗せている。今週はこの水準を維持できるかが焦点。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.1%安、今週は 30 日に中央銀行が金融政策決定会合を開催

SET 指数は週間で 0.1%安と反落。1 週間を通じて狭いレンジでの取引となった。週初の 21 日は、前週末のウクライナ情勢を巡る米中首脳ビデオ会談が平行線に終わったことなどが嫌気され、指数は続落。一方、22 日はエネルギー株と銀行株が買われて反発すると、23 日は前日からほぼ横ばいで推移した。24 日は 2 月の貿易収支（通関ベース）が 3 カ月ぶりに黒字に転じた効果で 3 日続伸したが、25 日は反落して取引を終えている。今週は 30 日に 2 月の鉱工業生産が発表されるほか、同日には中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。外部要因では OPEC プラスの閣僚級会合が意識されそうだ。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.8%高、週末に終値で 1600 ポイント台を回復

クアラルンプール総合指数は週間で 0.8%高と続伸。週半ば以降の上昇が奏功した。週初の 21 日は、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化を受けた世界経済に対する懸念の広がりなどが嫌気され、指数は 4 営業日ぶりに反落。22 日も売り優勢の展開が続いたが、23 日は金融株が指数上昇をけん引し、3 日ぶりに反発した。週後半は 24 日に小幅続伸した後、25 日は入国規制の大幅緩和を 4 月 1 日に控えた期待感の高まりなどから買われ、終値で 3 週間ぶりに 1600 ポイント台に到達した。今週はウクライナ情勢のほか、中国の 3 月の公式製造業 PMI と財新製造業 PMI の発表など、外部要因が指数を左右する展開か。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。